

\*\*\*\*\*

第 2 7 1 号  
2014年3月17日

## 日 本 気 象 学 会 関 西 支 部 ニ ュ ー ス

- 2013年度 の例会報告
- 第7回気象サイエンスカフェ in 関西  
報告
- 関西支部第31期役員選挙の告示
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い
- (公社)日本気象学会入会案内

〒 540-0008

大阪市中央区大手前4丁目 1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区气象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-6143

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://www.msj-kansai.jp/>

E-mail:

[info@msj-kansai.jp](mailto:info@msj-kansai.jp)

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際は半角で入力してください。)

\*\*\*\*\*

### ○ 2013年度の例会報告

〈第1回〉中国地区

第1回例会は、2013年11月9日(土)に岡山大学教育学部で開催されました。本例会の参加者は41名で、13件の一般講演に加えて最後に特別講演が行われました。一般講演は、岩田徹会員(岡山大学)、塚本修会員(岡山大学)、山下栄次会員(岡山理科大学)を座長に進められました。昨年度に引き続き、様々な分野の研究発表がありました。第1セッションでは、熊谷市でみられるヒートアイランド現象の観測、大阪平野を対象とした平日と休日の気温差の実態、スカイラジオメーターによるエアロゾルの光学的特性の分析、偏光ミュー散乱ライダーによるエアロゾルと雲の観測が報告されました。第2セッションでは、水稻耕作地の土壌有機物量の季節変化、水稻耕作地の野焼きによる二酸化炭素交換、灌漑水田の土壌電位変化とメタンフラックスの測定、瀬戸内海・四国南岸の大気中二酸化炭素の測定、瀬戸内海・四国南岸の海水中二酸化炭素と関連物質の測定について報告されました。最後の第3セッションでは、岡山の降水中イオン濃度の測定、温暖化実験による梅雨期の降水の将来変化、日本の気象環境と文化理解の学際教育、東アジアの地殻変動と日本の気候環境に関する学際的授業の取り組みが報告されました。

特別講演は加藤内藏進会員（岡山大学）を座長とし、野沢徹氏（岡山大学大学院自然科学研究科教授）によって「長期気候変化の原因特定に関する研究」が発表されました。地球温暖化の進行については一般の人でもマスメディアなどで知る機会が多くなりましたが、今、地球で何が起きているかがあまり詳しく語



中国地区例会の発表風景

られることなく、気温上昇の数字だけが独り歩きしているように感じます。地球温暖化研究の第一人者である野沢講師からは、過去から現在、さらに将来の予測にまで至る、地球の大気で今何が起きているのかをわかりやすく解説いただきました。特に、「過去150年間の地球の平均気温上昇（トレンド）の主要因は、温室効果ガスの増加によるものである」との結論の根拠について、種々の外的要因（自然起源や人為起源）をモデルで考慮したりしなかったりと、様々な条件設定の組み合わせで行ったシミュレーション結果を比較することで導かれたものであることを示されました。具体的データに基づいたこの説明は、異なる専門分野の会員にとっても大変説得力を持ちました。なお、今回は、高大連携の一環として、高校の地学関係の先生や生徒さん達もそれぞれ数名ですが、参加してもらうことができました。高校関係者にとっても、今回の例会は、研究者から直接、研究の最前線を聞いてもらう貴重な機会となったのではと思います。

例会の終了後には大学構内のピーチユニオンで懇親会が開かれ、発表内容に関する議論や交流が行われました。様々な立場の方々に参加いただいたことで、普段では味わえない貴重な機会を得ることができたと思います。最後に、特別講演を引き受けてくださった岡山大学の野沢徹教授と、発表会場並びに懇親会の手配と運営を行ってくださった岡山大学の加藤内藏進会員、大学院生・学部生の皆様、例会の運営に御支援と御協力をいただいた多くの方に対して、心より御礼を申し上げます。

（大橋唯太中国地区理事）

## 〈第2回〉近畿地区

第2回の例会が、昨年度同様、海洋気象学会例会、大阪管区気象台近畿地区気象研究会との合同で、2013年12月18日（水）9時30分から17時45分まで、大阪合同庁舎第4号館2階第2共用会議室において開催しました。参加者は学会関係者約30名、気象台関係多数で、日本気象学会（5題）、海洋気象学会（10題、内1題は書面）、気象台（3題）からそれぞれ発表がありました。初めに大阪管区気象台近畿地区気象研究会を行い、冷気層を要因とする大雨や関西空港の天気への影響について発表がありました。冷気層に関する研究発表でまとめたため、受講者に理解しやすい構成となりました。

日本気象学会関西支部と海洋気象学会の合同例会は題目数から発表時間を15分と昨年より5分短縮し、セッション1では関西支部の向川常任理事（京都大学）の座長のもと、気象の分野を中心とした5題の講演を行いました。線状降水帯の大雨事例解析と停滞性降水システムの特徴は密接に関連した研究で、可降水量、下層シアは大雨発生の必要条件の要素となっています。主成分分析による季節進行指標を近畿・北海道地方に応用すると内陸気候と海洋気候が地形を反映しているように明瞭に区別できています。座長自ら発表されたロシアブロッキングのメカニズムは、ブロッキングが発達するために降水に伴う非断熱加熱が重要な役割を果たしていることや予測精度が悪化する原因として、ブロッキングがイタリア上空でのトラフの急速な強化という直前の要因によって発達したためであったことが示唆されています。



近畿地区例会の発表風景

セッション2では、海洋気象学会の林監事（神戸大学自然科学系先端融合研究環）座長のもと、海洋分野を中心とした10題の講演を行いました。衛星搭載散乱計と放射系、メソ気象モデルWRF、 $PCO_2$ の海域別・時刻別変化、Area  $CO_2$  Fluxの試算、ADCP観測等、気象関係では新鮮な話題が多くありました。気象と海洋は密接に関連していますが、調査研究においては着目点や注目する現象が大きく違います。合同の例会は、さまざまな視点での研究に触れることができ、参加者にとって調査研究の拡充が期待されます。

最後に、会場の手配や準備及び例会の運営にご協力いただいた、大阪管区気象台職員、海洋気象学会、日本気象学会関西支部の関係者の皆様方に対し感謝致します。

（常任理事 見定 吉信）

### 〈第3回〉 四国地区

第3回例会が、2013年12月20日（金）、高松第2地方合同庁舎特別会議室にて開催されました。今回は、大阪管区気象台四国地区気象研究会との共催となり、朝10時から夕方5時まで、とても充実したプログラムとなりました。気象台関係者、大学関係者など、41名の参加がありました。

高松地方気象台長の城尾泰彦四国地区理事による開会挨拶、大阪管区気象台気象防災部の見定吉信防災調査課長による臨席官挨拶により始まりました。特に、今回はじめて気象学会と大阪管区気象台の合同研究会となった経緯を紹介していただきました。例会は4つのセッションで構成され、大阪管区気象台から8件、気象学会から7件の研究発表と、特別講演が行われました。

第1セッション（座長は三浦芳敬氏（高松地方気象台））、第2セッション（座長は野澤武志氏（高松地方気象台））および第3セッション（座長は佐々浩司氏（高知大

学) ) は一般講演です。香川県における大雨発生条件の抽出に関する話題から始まりました。その後、四国各地のメソスケール、マイクロスケールの現象を中心に、観測、モデルの両面からの研究発表がありました。対象となる現象は、四国の各県に偏りなく、豪雨の発生、竜巻、異常高温の原因、波浪のメカニズム等の災害の原因となるような現象にかかわ



四国地区例会の発表風景

る発表や、地球温暖化に伴う局地気象の変動の再現などの報告があり、活発な討論が開かれました。ここまでを総括し、城尾高松地方気象台長より講評をいただきました

第4セッションでは、佐々会員の座長の下、藤部文昭氏（気象研究所環境・応用気象研究部）による特別講演「長期観測データから見る日本の気候変動の実態と問題点」が行われました。気象の長期データには均質性の問題があり、温暖化影響の検出には困難が伴うこと。それを乗り越えて変動をとらえる研究の面白さを痛感いたしました。活発な質疑応答のあと、香川大学の寺尾より閉会挨拶をいたしました。

例会終了後の懇親会では、駅近くの店へ移動し、中華の丸テーブルを囲んで、気象台、大学関係者と例会の研究発表等を話題に楽しいひとときを過ごすことができました。今年も高知大学から多くの学生の参加があり、一般会員のよい話し相手として場を盛り上げていただきました。

今回、大阪管区気象台四国地区気象研究会との共催となったことにより、予報の立場から現象を詳細にとらえる研究交流となり、四国住民のくらしと安全に密着した課題が共有されたことは、気象学会にとって意義深いものでした。特別講演をお引き受け頂いた藤部先生、座長をお引き受け頂いた先生方、その他例会の運営に御支援、ご協力を頂いた皆様、四国例会の写真を提供していただいた高知大学の学生さんに心よりお礼申し上げます。

(寺尾徹四国地区理事)

## ○ 第7回気象サイエンスカフェ in 関西報告

サイエンスカフェは、業界外・学術界外の一般市民が気軽に覗ける窓口として、話題提供者とテーマを用意し皆で語り合う目的で開催するお茶会です。

2014年1月25日、大阪心斎橋の英國屋にて第7回気象サイエンスカフェ in 関西を開催しました（日本気象学会関西支部と日本気象予報士会関西支部の共催）。

当日の参加は20名、読売新聞大阪本社 科学部から川西勝さんを招き、「災害報道の落とし穴～現場からの報告」のスライド映像と講話で話題を提供して頂きました。

発達し続ける超速デジタル通信網に対して、特にスピードの面でバリュー低下を認めざるを得ない紙面メディアが守る牙城は、論評の質と記録文書としての機能性だといえます。

デジタル技術は高速通信のみならず、一般住民の日常に広く映像や音声で取材する機会をもたらし、今やちょっと目立つ出来事が起こると、新聞社への持込みや投稿が押し寄せるのが普通だそうです。翌日夕刊への記事掲載が必要な場合に本社からかかってくる「悪魔の電話」の心配から解けた深夜3時頃、ようやくぐっすり眠れるのだとか。



講演する川西さんと参加者の皆さん

だからこそ新聞社にはその真偽を見抜き、記事が世論に与えるものや世論からの返ってくるものを、素早く的確に想定して記事にする力が必要とされている。災害の発生モードやその後の2次3次の展開に定型パターンは存在しないため、新聞社の対応に標準書はなく全て出たところ勝負の臨機応変。予想外の解釈や思考で次々展開する世論を相手に、今日も試行錯誤を繰り返している。

こんな新聞記者の日常に驚き感心していたら、1時間半の予定は実にあっという間に過ぎてしまいました。散会後もなお片付け中の川西さんと熱心に話し込む方もおられましたが、お店の御厚意で予定退出時刻に少々融通を頂くことができ、第7回気象サイエンスカフェは好評のうちに終了しました。

(常任理事 難波 良彰)

## 日本気象学会関西支部第31期役員選挙の告示

日本気象学会関西支部規約（第9条）及び日本気象学会関西支部役員選挙細則に基づき、次期役員選挙を以下の要領で実施する。

日本気象学会関西支部選挙管理委員会  
〒5400008 大阪市中央区大手前4-1-76 大阪合同庁舎第4号館  
大阪管区気象台防災調査課内（電話06-6949-6143）  
（委員） 溝本 崇、土井 ひかる

### (1) 選出する役員数

常任理事7名、地区理事6名（近畿・中国・四国各2名）、会計監査1名

### (2) 立候補の届出

- ア. 立候補の資格・・・2014年4月1日現在で関西支部の個人会員である者。
- イ. 届出の手続き・・・立候補もしくは候補者を推薦する者は、選挙管理委員会に届出用紙を請求し、必要事項をもなく記載の上、同委員会に提出すること（郵送可）。
- ウ. 届出の期間・・・2014年4月7日（月）から4月18日（金）までに届けること（必着）。
- エ. 届出の宛先・・・〒5400008 大阪市中央区大手前4-1-76  
大阪合同庁舎第4号館 大阪管区気象台気象防災部気付  
日本気象学会関西支部選挙管理委員会
- オ. 立候補者の資格審査・・・立候補届出期間終了後、速やかに行う。
- カ. 立候補者名簿の記載順序・・・立候補者資格審査合格者について、選挙管理委員会が抽選により定める。
- キ. 立候補受付状況の公開・・・立候補届出者の氏名は、関西支部事務局および選挙管理委員会に随時照会することができる。

### (3) 投票

- ア. 投票の実施・・・立候補者がそれぞれの役員の定数を超えた場合に実施する。立候補者がそれぞれの役員の定数内の場合は無投票当選とする。
- イ. 有権者資格・・・2014年4月1日現在で関西支部の個人会員である者。
- ウ. 選挙公報および投票用紙・・・選挙公報（立候補者名簿等を含む）と投票用紙は、全有権者に郵送する。これが2014年5月9日（水）までに届かない有権者は直ちに選挙管理委員会に申し出ること。
- エ. 投票期日・・・2014年5月23日（金）までに選挙管理委員会に持参または郵送すること（郵送の場合は2014年5月23日以前の消印のあるものを有効とする）。
- オ. 投票方法・・・無記名文書投票。投票方法の詳細は投票用紙とともに郵送する。

### (4) 開票および結果の公表

- ア. 開票期日・・・開票は2014年5月29日（木）に大阪管区気象台内にて行う。有権者はこの開票に立ち合うことができる。
- イ. 当選者の決定・・・選挙細則第5条の定めによる。
- ウ. 結果の公表・・・結果は、当日学会関西支部事務局（大阪管区気象台）に掲示、かつ関西支部ホームページに掲載する。

### 日本気象学会関西支部役員選挙細則

1. 理事および会計監査（以下、役員）は、会員による選挙で、自薦立候補者と会員2名以上の推薦による立候補者（以下、両者を立候補者とする）の中から選出する。
2. 常任理事および会計監査への立候補者の資格は、近畿地区（滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫各府県）に在住の会員とする。
3. 地区に属する府県、および各地区から選任する地区理事の定数は次のとおりとする。  
近畿地区（滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫各府県） 2名

中国地区（鳥取、岡山、島根、広島各県） 2名

四国地区（香川、徳島、愛媛、高知各県） 2名

- 4.選挙は、無記名連記の文書投票による。連記する数は、役員の定数とする。但し、立候補者が定数内の場合は無投票当選とする。
- 5.役員の当選は、常任理事と会計監査にあつては有効得票数の多い順、地区理事にあつては各地区毎に有効得票数の多い順によって定める。ただし、得票数が有権者総数の10分の1に満たない立候補者は、役員となれない。
- 6.役員が、該当する地区の外に異動した時は失格とする。
- 7.役員が、特別の事情により辞任を申し出た場合は、その任期中においても、常任理事会の議決により、解任することができる。
- 8.役員に欠員が生じた場合は、次点者を後任役員とする。次点者がいない場合は、常任理事会の議を経て、支部長は該当する地区の会員から、後任役員を推薦することができる。支部長が推薦した後任役員は、総会で選任されるまでの間、役員に準じて職務を行うことができる。後任役員の任期は、前任者の残り期間とする。
- 9.立候補者あるいは推薦者は投票締切日の25日前までに、立候補者名、立候補する役員名を記入して、書面により選挙管理委員会に提出しなければならぬ。
- 10.選挙に際してはその都度選挙管理委員を若干名おく。委員は会員の中から支部長が任命する。
- 11.立候補者は、選挙管理委員となることはできない。
- 12.選挙管理委員会は、支部規約および本細則に従い、以下の任務を行う。  
選挙の告示、役員立候補者の受付と発表、投票の実施、開票と結果の発表
- 13.投票を実施する場合、選挙管理委員会は、立候補者名を投票締切日の20日前までに、会員に告示する。
- 14.投票は所定の投票用紙と封筒により、選挙管理委員会に郵送、または持参するものとする。郵送の場合は投票締切日の消印のあるものまで有効とする。
- 15.選挙の結果は、支部長が選挙後、最初の総会で報告する。

付 則 この改正は1995年6月20日から実施する。

この改正は1998年6月17日から実施する。

### ○ メールアドレス登録のお願い

関西支部ニュースは年3回（5月、10月、3月）発行予定で、2006年度から関西支部ホームページに掲載して閲覧していただいています。支部ニュース発行、総会・年会・例会などの開催通知等は支部全会員にE-mailで配信しています。まだ登録されていない会員の方は、会員氏名・番号、E-mailアドレスを関西支部事務局まで、ご登録いただくよう重ねてお願いします（関西支部の連絡先などは最初のページをご覧ください）。

### ○ 住所変更届のお願い

機関誌「天気」などの発送は学会本部事務局の会員名簿に基づいて行っています。学会事務局では会員の皆様の異動状況を早めに把握するように努めておりますが、把握漏れがあった場合には旧勤務地（旧住所）に発送され、旧勤務地（旧住所）の方に転送等の御迷惑をおかけすることになります。会員の皆様におかれましては、転勤等により勤務地（住所）が変わった場合、変更届を速やかに下記の学会本部事務局宛にご連絡いただきますようお願いいたします。

※学会事務局 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL : 03-3212-8341 (内線 2546) FAX : 03-3216-4401

E-mail [met\\_soc-j@aurora.ocn.ne.jp](mailto:met_soc-j@aurora.ocn.ne.jp)

(注: メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際は半角で入力して下さい)

#### 住所等の変更届

- |               |      |
|---------------|------|
| ・会員番号: No.    | ・氏名: |
| ・旧勤務地(旧住所): 〒 |      |
| ・新勤務地(新住所): 〒 |      |

会費の納入など詳しいことは学会事務局にお尋ね下さい。

※学会事務局 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL : 03-3212-8341 (内線 2546) FAX : 03-3216-4401



○ (社)日本気象学会入会案内

ホームページ: <http://www.metsoc.or.jp/Form/nyukai-j.html>

入会申込書(個人用)

公益社団法人 日本気象学会 FAX: 03-3216-4401

(二重線の枠内だけを記入しFax, 又は郵送願います。)

フリガナ		生年月日	(西暦) 年 月 日
姓 名		職業	
性 別	1. 男 2. 女		
刊行物などの送付先			
〒 -		(電話)	
現住所 (刊行物などの送付先と同じ場合は記入不要)			
〒 -		(電話)	
勤務先名/所属部署, 又は大学・学校名/在籍学部など (できるだけ詳細に) 及び所在地・電話番号			
〒 -		(電話)	
電子メール・アドレス			
会員区分 (希望する区分を○で囲んでください。学生/高年割引適用を希望する方はその文字を○で囲んでください。)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A会員 (年会費 6,900円, 「天気(毎月刊)」を無償配布)</li> <li>・ B会員 (年会費12,600円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ:偶数月刊)」を無償配布)</li> <li>・ C会員 (年会費 6,600円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布)</li> <li>・ (学生・高年割引適用) A会員 (年会費 4,200円, 「天気」を無償配布)</li> <li>・ (学生・高年割引適用) B会員 (年会費 8,100円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ)」を無償配布)</li> <li>・ (学生・高年割引適用) C会員 (年会費 4,000円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布)</li> </ul>			
注 ① 学生割引を希望される方は、在学証明書(コピー可)などを提示願います。			
② 高年割引を希望される方は、4月1日に65歳以上であることが確認できる免許証(コピー可)などを提示願います。			
③ 年の途中から入会される場合、会費は月割となります。 (参考: 月割の会費)			
刊行物の配布開始希望 年月	(A会員: 580円/月, 学生・高年割引適用の場合 350円/月)		
天気 年 月号から	(B会員: 580円/月+950円/2月, 学生・高年 350円/月+650円/2月)		
気象集誌(JMSJ) 年 月号から	(C会員: 1,100円/2月, 学生・高年割引適用の場合 670円/2月)		
その他刊行物の定期購読の希望有無			
気象研究ノート	1. 希望する ( 号から) 2. 希望しない		
大会講演予稿集	1. 希望する ( 年 春/秋 から) 2. 希望しない		
来年からの会費納入方法 (希望の番号を○で囲んでください。)			
1. ゆうちょ銀行口座からの引落	注 ① 1. 2. 3. の場合は、手続きに必要な申込書類をお送りします。 ご記入がない場合は 4. とみなし、請求時に払込取扱票をお送りします。 ② 1. 2. 3. の場合の引落手数料は学会が負担します。 ③ 4. の場合、振込手数料は申込者負担とさせていただきます。		
2. 銀行口座からの引落			
3. クレジットカード決済			
4. 郵便局からの振込(払込)			
通信欄(その他)			

以下、学会事務担当者記入欄:

月割会費	天気: 冊 × 円 = 円	気象集誌: 冊 × 円 = 円	合計: 円
会員番号	所属支部	受付日	20 年 月 日
		承認日	20 年 月 日

2013. 04. 25